

報道関係者だった方々を中心に港南区9条の会が10年前、立ち上がりました。10周年記念に、昨日、多岐の分野で多彩に活躍しておられる作曲家の池辺晋一郎氏を招いて、鼎談とミニ・コンサートが企画されました。かなりの年齢になった設立のメンバーも、世話人の一人である夫も、この会の成功のために懸命に努力した甲斐あって、港南公会堂に多くの聴衆のご参加を頂いて、成功した！と思っています。



オープニングは池辺氏によるビートルズの”Hey Jude”のピアノ演奏で、華やかに幕が開きました。ジョン・レノンの平和への願いをもっと歌に乗せたいという彼の思いが熱く伝わりました。トークは軽妙で、ダジャレを交えて、リズムカルに流したいという感じでしょうか。お話しのイントロは、水戸出身という生い立ちから、方言のサウンド、イントネーション、アクセント、トーンなど、音の世界の異文化体験

を面白がるのが、相互の理解、交流を生むということから入りました。

テーマは南極でした。鼎談の相手として、「地球の9条もしくは南極賛歌」という合唱曲の作詞家柴田鉄治氏とコーディネートした合唱団指揮者の小島修氏が加わり、南極のお話しになりました。



南極は発見以来、各国の領有権主張が続きましたが、1959年に南極条約が締結され、人類の共有財産になりました。軍事的利用は禁止となり、科学的調査の自由と、国際協力が定められています。つまり、国境のない大陸、平和と環境保全という安全な大陸であり、世界の50か国がこの条約に加わっています。日本

政府が神経を逆立てている中国、北朝鮮も参加国です。南極に魅せられた柴田氏は南極賛歌の詩を書き、池辺氏が作曲され、小島氏があちこちでその歌を演奏しています。人類の理想を実現した、憲法9条を体現している世界が、南極です。柴田氏は南極に住みたいとのことでした。

テーマの各フレーズに、国境、言語を超えた人間同士の身振り手振りでのコミュニケーションがなされたことの熱い思い出がそれぞれ語られました。鼎談者たちは、トークに、アクセントとして、安倍政権への批判も鋭く入れ込みました。閣議決定により安保法案を出した国会軽視、憲法学者の意見を無視、体験した戦争の悲惨さ、戦前の日本と酷似している北朝鮮の現状、憲法改定を目論むものの難しいと見るや外堀の96条をいじくる、メディアへの圧力。ポンポンと話が進み、あっという間に時間がたってしまいました。通奏低音のような平和への願いが続き、池辺氏のフィナーレはシールズ(SEALDs)の若者への共感です。希望を持って、世界を変えていきたいという思いです。“Hey Jude/Don't make it bad/Take a sad song and make it better”



第2部は高瀬みどり、MIKO 姉妹の「ソーラン渡り鳥」の演歌で始まり、度肝を抜かれました。その後、平和がテーマのポップスを軽やかに、神奈川県的情景を想う唱歌をしっかりと歌ってくれました。最後に聴衆も一緒に、池辺氏のピアノ伴奏で「ふるさと」を歌い、平和への希望を胸に散会となりました。